

# プランタでも育てられる お好みのコンテナ菜園

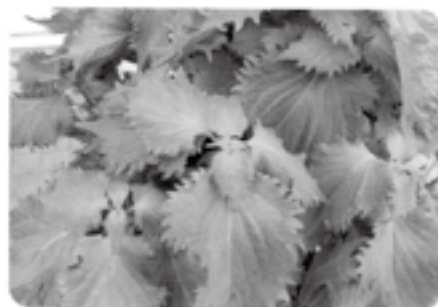
写真・文：園芸研究家●淡野一郎

## 葉ジソ

刺身のつま、薬味、天ぷらに  
種まきは日長14時間以上で

シソの中でも葉を使う葉ジソには、梅干しの色づけなどに使う赤ジソ、刺身のつまなどにする青ジソ（オオバ）があります。

原産地はモンスーン気候で夏は海から暖かく湿った季節風が吹き暑く、前線が停滞し雨が多くなります。このため発芽適温は20～25度と高めです。種は皮が硬く、発芽に光が必要なので、種まき前に芽出し処理し、種まきは覆土を薄くして、4月下旬までは保温して出芽させます。シソは一定の葉枚数になり、夕方の薄明期を含む日長が14時間以下になると花芽を作る短日植物です。花が咲くと葉の収穫が難しくなるので、種まきは日長が14時間を越えるゴールデンウィーク頃からの長日期間にすると長く収穫できます。温暖地ならこの頃、気温が生育温度の下限を越えるので、外で育てるにも好都合です。



「大葉青しそ」  
生育旺盛で栽培し  
やすい葉ジソ

### 【基本情報】

- 分類：シソ科シソ属
- 原産地：ヒマラヤ、ミャンマー、中国南西部
- 発芽適温(地温)：20～25度
- 生育適温(気温)：20～23度
- 日当たり：日なた ●好適pH：6.0～6.7

### 【病害虫情報】

ハダニ類：高温期に乾燥していると葉の裏面などに大量発生する。見つけたらハンドスプレーなどで洗い落とす。  
ベニフキノメイガ：春、7、9月頃に幼虫が発生して、葉をつぶり、周囲の葉を食害。見つけ次第手で捕殺する。

## 葉ジソの栽培方法

### 1 種まき

種まきの2日前から種を水に漬け、半日おきに水を替え芽出し処理する。直径9cmのポリ鉢へ培養土を入れ、真ん中に深さ5mmほどのくぼみを付け、種10粒ほどをまく(写真1)。発芽に光が必要なのでパーミキュライトを薄くかけ(写真2)、軽く手で押さえ、やさしく水やりする。

ポイント 種まき後は4月下旬までは日当たりの良い窓辺などで出芽させる。出芽後は外で育てる。



### 3 収穫・追肥

収穫は植え付け後30日ほど、本葉10枚から行う。葉身で摘み採ると黒く変色してしまうので、葉柄を持って摘み採る(写真6)。最初の収穫から1週間おきに化成肥料(NPK各成分8-8-8)約1gを施し(写真7)、水やりする。

ポイント 乾燥を嫌い、土の水分と栄養が少ないと、葉が小さく色も薄くなるのでまめに追肥と水やりする。特に梅雨明け後は、乾きやすくなるので毎日しっかり水やりする。



### 2 間引き・植え付け

種まき後6～8日ほどで芽が出てくる。本葉2枚までにははさみで3株に間引き(写真3)。さらに種まき後30～40日、本葉6枚で1株にする(写真4)。2回目の間引き後、直径30cmのポリ鉢(約15L)に培養土とIB化成約38gを混ぜ入れ、1株を植え付ける(写真5)。植え付け後はたっぷり水やりする。

ポイント 最初の間引き後に鉢縁にIB化成1粒を押し込んでおくと苗がスムーズに生育する。



### 4 摘葉・整枝

枝や葉が、湿みあい暗くなると花芽ができやすくなり、風通しが悪くなることで病気が出やすくなる。また土も乾きやすくなるので、必要に応じて、側枝を4～5本に整理し、下葉も取り除く(写真8、左：整枝前、右：整枝後)。

ポイント 乾き対策には増し土やひと回り大きな鉢へ植え替え、半日陰へ移動するのも方法。



### 栽培カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
寒地												
冷地												
暖地												

● 種まき --- 保温 Y 植え付け ■ 収穫

※温暖地を基準に記事を作成しています。



## 農作業メモ



**水稲**  
田代 好幸  
農畜産課  
0969-22-1105

### ○中干し後の水管理

中干し終了後(平成5月末日)から穂ばらみ期前までは、間断灌水で管理し、水と空気を根に補給して根の活力を上げ、登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては、稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理をしましょう。

### ○穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけましょう。畦から1メートル以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を、一枚のほ場から3株以上取ります。茎は一枚ずつはいで幼穂の長さを測ります。長さが1.0～1.5ミリの頃に穂肥を施用します。

### ○穂肥の目安(出穂前25日前後…幼穂長1.0～1.5ミリ)

稲の葉色を見て適正量を施用してください。

葉色	4 未満	4 以上 4.5 未満	4.5 以上
有機苦土 047	15kg	10kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板(カラススケール)を使用してください。

太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

### ○病害虫防除

特別栽培においては防除回数に限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場見回りの徹底による耕種の防除と組み合わせた適期防除に努めてください。(病害虫情報は、各支所経済課へ

問い合わせください)

なお、5月中旬頃から、葉いもち・紋枯病の発生が始まりますので、5月上旬頃に、オリブライ豆つぶの予防剤の散布を実施してください。(中干し前に散布し、7日間は落水しないでください)

※中干し後でも、散布は可能です。

※オリブライ豆つぶ250g / 10aは、あずき豆ほどの大ききで、水面に落ちると自分で拡散します。

畔から5mおきを目安に、水田中央に向かってひとにぎりを散布してください。

### ○中間施肥(高温障害・倒伏の軽減対策)

中干し時期に茎を丈夫にするために、珪酸加里又は、サポートセブンを10aに20kg程度を施用してください。

### 〈農作業に伴う道路の泥汚れ防止について〉

トラクター等の農作業後、田・畑から公道に出る前には必ず機械に付着している泥を落としてから走行してください。

道路に落ちた泥は、通行の妨げになる恐れがあります。また、みだりに道路を汚損することは法律で禁止されており、違反した場合は一年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処せられます。(道路法第43条第1項、道路法第102条3項)

道路を泥などで汚した場合は、速やかに清掃するなどの対応を行い、道路はきれいに保ちましょう。



## 5月・6月の柑橘園管理



**果樹**  
木蜜 栄次  
果樹園芸課  
080-1759-0088

### 1. 病害虫防除

品種	対象病害虫	属性	農薬名	希釈倍数	散布時期
全品種	ケシキスイ類、コアオハナムグリ	劇物	モスピランSL液剤	4,000倍	満開期(開花期間)
全品種	灰色カビ病、そうか病	普通物	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍	
中晩柑	ホコリ・サビダニ、カイガラ類	普通物	モベントフロアブル	2,000倍	5月中旬～下旬 (落弁期～一次落果期)
中晩柑	黒点病	普通物	ナティーボフロアブル	1,500倍	
全品種	カイガラムシ類、ゴマダラカミキリ	普通物	トランスフォームフロアブル	2,000倍	6月上旬 (2次落果期)
	黒点病	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤	600倍	
	展着剤	普通物	加用 アビオンE	1,000倍	
温州	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	200倍	6月中旬～下旬 (2次落果終了後)
	黒点病	普通物	ジマンダイセン水和剤	600倍	
	ホコリ・サビダニ	劇物	ハチハチフロアブル	2,000倍	
中晩柑	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	150倍	6月中旬～下旬
	黒点病	普通物	ジマンダイセン水和剤	600倍	
	ミカンサビダニ	劇物	ハチハチフロアブル	2,000倍	

※ケシキスイ類、コアオハナムグリには、エクシレルSE「普通物」5,000倍も使用可。(開花期) ※灰色カビ、そうか病はフルーツセイバー 1,500倍「普通物」も使用可。(開花期) ※モベントフロアブル「普通物」で皮膚炎等の恐れがある場合は、アグリメック2,000倍を使用する。 ※カイガラムシが多い園では、エルサン乳剤「劇物」1,000倍を散布。(6月中旬～下旬)

### 2. 施肥 ○通常タイプ

肥料名	施肥時期	対象品種	10a当たり
果樹専用スペシャル 又は 果樹専用「極」	6月上旬	早生・中熟・普通温州	2袋
		河内晩柑・清見 甘夏・パール柑	5袋
		ポンカン	3袋
		デコポン	4袋

### 3. 葉面散布

目的	薬剤名	希釈倍数	備考
樹勢維持	尿素 又はニューアミノ ジューシーN14 又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後：3回程度集中 散布及び発芽～新梢伸 長期
緑化促進	葉面マグ	200倍	緑化が遅れそうな場合
新梢充実	ジューシーカル	1,000倍	デコポン等

### 4. 着果対策(かんきつ)

ジベレリンの散布…ジベレリンを散布する事により、着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布しましょう。

尿素有500倍加用する事により効果が上がります。

### ○使用時期…開花～満開10日後(開花後処理時期が早いほど効果が高い)

希釈表(開花期) 25 ppm	ジベレリン液剤 40mlの場合	水 8Lに1本	尿素 500倍(16g)	使用液量 10 a当たり
	ジベレリン液剤 100mlの場合	水 20Lに1本	尿素 500倍(40g)	50～100ℓ